

最近あるお客様から、「芝生の品種は何種類ぐらいあるのか？」という質問を受けました。正確に把握するのは難しいのですが、主な芝生草種の日本の登録品種数、および世界最大の芝生種子生産国であるアメリカの登録品種数を紹介します。

## 芝生の品種は、いったい何種類あるのだろうか？

### 国内外で登録生産されている芝生の品種

日本の品種	登録品種数 (農水省品種登録ホームページ・平成 23 年 3 月 31 日現在)	生産流通品種数 (公表データなく弊社調べ)
しば属(ノシバ類)	41 (これに加え出願公表 5 種が手続中)	5
クリーピングベントグラス	11	1
アメリカの品種	品種特許登録数(PVP) (アメリカ農務省ホームページ・2011 年 11 月現在)	生産流通品種数 (TPI Turf News 誌・2011 年 7/8 月)
クリーピングベントグラス	41	44
ペレニアルライグラス	149	171
トールフェスク	181	159
ケンタッキーブルーグラス	143	141
チューイングフェスク	40	31
クリーピングレッドフェスク	33	34
ハードフェスク	23	25
バーミューダグラス・種子	22	23
ノシバ類・種子	-	5

日本国内で育種された芝生の品種は、ハイブリッド日本芝の「みやこ」をはじめとするノシバ類が 41 種、クリーピングベントグラスが 11 種です。そのうち実際に生産流通している品種は数品種にとどまっています。一方 1980 年代から 1990 年代、芝生先進国のアメリカでは好景気による宅地・ゴルフ場開発ブームを背景に寒地型芝草の育種が盛んに行われ、クリーピングベントグラスとペレニアルライグラス、トールフェスク、ケンタッキーブルーグラスの主要な 4 草種をとっても、合わせて 500 種以上が登録され生産流通しています。ゴルフ場のグリーンで使われるクリーピングベントグラスの育種の歴史をみると、初期には種子生産性の向上や踏圧抵抗性の改良が手掛けれ、やがて耐暑性や耐病性、競技志向の高まりから低刈抵抗性の改良へと育種目標が変化してきました。近年の景気減速による新たな品種開発投資の縮小から、今後ゴルフ場などの現場では新品種の選択肢が限定されることが危惧されます。芝生の使用場面で必要な特性を持つ品種を的確に選択するためには、流通品種の開発過程の改良点を詳しく知る必要があります。

人の手で改良を加えた品種は、育種の過程で加えた極端な選抜条件(悪条件)で初めてその特性が現れます。例えば、病気の被害が少ないゴルフ場で耐病性品種を使っても、その効果ははっきりと判りません。新しい品種であっても立地によっては改良品種の恩恵を受けることができない場合があります。数多くの品種が流通している現状では、それぞれのゴルフ場で課題を見極め、問題解決に適した品種の選定が重要になります。

弊社ではベントグリーンの夏越しに重点を置き、暑さや病害に強く、サッチコントロールし易いクリーピングベントグラスの品種「962」や「L-93」をご提供させて頂いています。品種選定の際には是非ご検討ください。



東洋グリーン株式会社

TOYO GREEN

〒103-0013

東京都中央区

日本橋人形町 2 丁目 33 番 8 号

<http://www.toyo-green.com>